

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大阪府立西淀川高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒555-0031

大阪府大阪市西淀川区出来島3丁目3-6

E-mail mail@nishiyodogawa.osaka-c.ed.jp

Website http://www.osaka-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 94名 女子 82名 合計 176名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域の環境」を活動テーマとして、ESDの実践を通して一人一人が身近な「環境」について考え「他者と協力」「コミュニケーション」を図り、自ら行動し生きていく力の育成を図ることを目標としている。

具体的には、「環境」を柱に、①学校設定科目「環境」に係わる(学び)教育、②学校行事に係わる学習活動、③学年行事に係わる学習活動、④クラブ活動等に係わる活動を行った。

### ① 学校設定科目「環境」での学び

#### 【学習内容】

環境資料室見学、西淀川の歴史と環境問題、地球環境問題、菜の花プロジェクト、ゴミ問題、東日本大震災と原発問題、水問題、淀川水系の問題、公害問題、四大公害問題、西淀川大気汚染問題、SPM尼崎公害、環境問題と戦争・日本国憲法中島大水道と緑陰道路、私の環境宣言、農作業、保育所交流

## ②学校行事

地域の住民、小学生・保育園児たちとともに環境について考え・交流する場を持った。

- ・ 第 17 回環境フェスタ（4 月）
- ・ 第 18 回環境フェスタ（10 月）
- ・ 文化祭「大気汚染調査結果発表」（11 月）
- ・ 学校設定科目「環境」での学びの成果を発表。

## ③学年行事

西淀川区は、かつて複合大気汚染の被害が深刻であったが、地域住民の努力により克服してきた歴史がある。こうした地域性から、本校は環境教育に力を入れている。公害病患者さんから直接お話を聞いたり、地域の自然を体験する行事を組み入れた。

- ・ 公害病患者さんのお話を聞く（12 月）
- ・ 下水道科学館見学（11 月）
- ・ 矢倉海岸フィールドワーク（1 月）
- ・ NOx 調査（10 月）

## ④クラブ活動等

クラブ活動（エコ・コミュニケーション部など）を通して地域交流を活発にし、生徒が積極的に情報発信をしたり、学びを深める機会を持った。

- ・ 校内美化活動、地域清掃
- ・ 廃食油回収運動
- ・ 畑作業（さつまいも、じゃがいも、菜の花栽培）
- ・ 西淀川区民まつり参加
- ・ 出来島小学校夕涼み会参加
- ・ 出来島！国際交流フェア参加
- ・ とよなか市民環境展参加

① 菜の花プロジェクト

② 春の環境フェスタ

③ 公害患者さんのお話を聞く

④ 駅前清掃活動

\* 活動写真は別紙参照

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

学校の所在地は経済成長著しい過去において、工場地帯であり公害が大きな問題となっていた。そのため、私たちの身近にある環境をテーマに取り組み、エコの観点から「菜の花プロジェクト」や原油回収から「資源循環」について学び、地域の『人のつながり』を大切に活動してきている。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他( 公害問題 )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクールと持続発展教育（ESD）
----------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>本校は、学校の周辺地域が工業地帯であり、日本の産業発展にともない公害・喘息などの問題がありました。この様なことから身近な地域について関心や興味をもって考えるべき問題として、本校では「環境」について学ぶようになりました。</p> <p>また、本校の生徒たちの中には、自己肯定感や自尊感情が低い生徒やコミュニケーション力に乏しい生徒もおり、自己肯定感やコミュニケーション力など高めるため、教室で様々な環境について学んでいる。社会科や理科などの教諭が「環境」授業を担当し、公害を含め学校周辺の自然などについてプログラムを見直しながら進めているが今後を見据えよりアクティブラーニングもより取り入れていきたい。</p> <p>また、学校行事等においても野菜の栽培や地域でのフィールドワーク・清掃活動などを実施している。また、様々な学校行事やクラブ活動などについてもESDの観点で工夫改善し、取り組みを進めている。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

ユネスコスクールの提起している研究テーマの一つである環境。その「環境」を学校設定科目として授業として実施。年度当初、体制の整備、関係教員による授業打合せやなど実施。また、環境に係る行事についても、学年団などその担当教員が取り組みについて検討・計画し、実施をしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

学校としてテーマ「環境」に取り組んでいるが、その活動について毎年関係教員により内容の検討し質の向上に取り組んでいる。地域など学校外の人との交流や協力が生徒たちは、それらの環境学習によって、「安全な環境」「豊かな自然」を意識しだしていると思われる。しかし、これらの学習を通して、よりESD実践につながった充実したものにするために、どのような工夫していけば良いかが課題となっている。

※チェック事項1-5に対応

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

本校のホームページ上などで取り組みや活動をアップしている。近隣商店街と協働した駅前清掃活動や地元の祭りなどにも参加し廃油回収などの活動をホームページで紹介。

これらの活動を通して、生徒たちは近隣の人たちから「ごくろうさま」などの声をかけられたりするようになり、教員以外の大人とのコミュニケーションを取る機会も増え、生徒たちの自信にもつながっている。また、学校への地域の信頼が高まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

公害（環境）関係	（あおぞら財団）
フラワー（環境）フェスタ	（西淀川区ライオンズクラブ） （西淀川区役所）
地域清掃活動	（出来島商店街）
とよなか環境市民展	（豊中市役所） など

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

本校は、国際留学や海外の学校と姉妹校の提携をしていないことから交流やネットワークを取りにくい状況である。

ユネスコスクールの国際交流やユネスコネットワークセミナーなどに行ければ参加することにより交流等の充実を考えていければと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

本校のエコ・コミュニケーション部の生徒が、ユネスコスクールとしての活動（ユネスコスクールネットワークセミナー）に参加。その生徒が課題に対して積極的に取り組み、自分の考えを積極的に表現できるようになった。

地域などとの交流が増えてきているため、生徒たち、地域の方々の双方の相互理解が深まってきていると感じている。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

基本的には、今まで築いてきたものを検証・修正しながら実施していく予定である。上記に書いたように、交流も含め充実を考えていかなくてはいけないが、学校により生徒たちの状況は様々であり、その状況の中で、よりベターな活動をどのようにしていくか工夫する必要がある。それらの活動を通して、生徒たちが「すばらしい他者を発見」、「自己の素晴らしさに気づき」ひいては自己肯定感を育んでいくことを目的として計画を実行できればと考えている。